

東日本大震災支援活動

～効果的災害医療の構築に向けて～

代表者 上柴 このみ (医学部医学科4年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、本学の医学生が東日本大震災の被災地でボランティア活動を行うと共に、支援に従事してきた被災地の医学生を本学に招致して報告会を行い、現場から求められる災害医療のあり方を学び、医学生の災害対応能力を上げることで、将来の日本の災害医療の充実を目指すことです。

2. 実施期間（実施日）

「宮城県石巻市 現地ボランティア活動」

平成23年8月8日 から 平成23年8月14日まで

「大震災発生 その時、どう動いたか - 被災地学生報告会」

平成23年10月29日 から 平成23年10月30日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

「宮城県石巻市 現地ボランティア活動」



＜冠水が続く石巻沿岸部＞

同じ医学部内の「国と国との医療を学ぶ会～IRM」の有志や、本学の東日本大震災支援団体と共にチーム香川 Students を結成し、8月に、宮城県の石巻市にて活動を行いました。フェアトレード東北という地元のNPOに受け入れて頂き、主に、配給の補助、在宅避難民への傾聴と現状把握を目的とした聞き取り調査を行いました。仮設住宅を巡る問題など、支援のニーズが時期によって変化していくことや、夏になっても冠水が続く沿岸部の様子、当時を思い出して涙される被災者の方の様子から、被害の根深さと長期的支援の必要性を間の当たりにしました。また、地元のNPOに受け入れて頂き、壮絶な経験をされたにも関わらず、被災者の方が復興の主役として休みなく奮闘される姿を間近に見ることで、被災者の方々に頭が下がる思いでした。

「被災地学生報告会」

今回の震災を受け、医学生として出来ることを考えていく中で、これから現場に出て行く身としては、今回の震災から学び、将来につなげていく事も、自分達の大きな役割ではないかと考えました。しかし、自分達の様な短期間しか活動できない外部の者が、現場の実情



情を把握するには限界があります。そこで是非、当事者の方からお話を伺いたいということで、10月29日、香川大学医学部臨床講義棟2階にて、宮城県と福島県の医療系学生による報告会を実施致しました。報告会の目的は、「暮す」側の立場から今回の震災支援を振り返ること、今後の東日本および将来の被災地へのより良い支援像を探ること、そして、医療系学生が日常の中で被災し、何ができ、何ができなかったかを教えて頂くことから、

南海沖地震等に備え、自分達の日常からできることを考えることとしました。報告者として、東北大学から医学部2年生、3年生の方々、看護科3年生の方々、福島医科大学から医学部4年生、5年生の方々、福島大学から行政社会学部4年生の方の合計7名の方に来て頂き、非常に臨場感のある貴重なお話をして頂くことができました。福島医科大の方からは、大学病院で患者搬送等の手伝いをされた経験から、この様なときに求められる車椅子の押し方を含めた看護・介護の知識が医学生に非常に乏しいことを痛感したことが話され、避難所など大学外の支援に従事された方からは、避難所間の状況に格差が見られたこと、医療に限らず、福祉等も含めた様々な分野の人との協働が重要であることなどが話されました。東北大では、大学の精神科などの医局の募集に応じて避難所等の巡回に従事した経験から、大学と協働するメリットや行政との協力の重要性、各特色を押さえて地域毎に災害医療を考える大切さが報告された他、緊急時には、日常的に活用していた部活や試験情報共有のための学年のメーリングリストが安否確認を含めた緊急の連絡ツールとして



＜報告者の皆さん＞

活躍したことなども話されました。また、情報共有として、ボランティアの学生間ではツイッターも活用された一方で、今後は全ての年代の方に確実に情報が行き届く手段を考える必要性も指摘されました。

質疑応答では、まず、学生ボランティア活動への参加について質問があり、東北大学では、活動場所の重複を避けるべく、大学が学生の活動の調整を行った一方、福島医科大ではそのような大学の調整もなく、個人がバラバラで活動していたので、活動が一元化されるシステム作りを予めしておくことが提案されました。現在のクラスメイトの様子についての質問では、東北大では、仙台の市街地に住む学生が多かったこともあり、数人が、実家で被害を受けた以外は、被災して学業の継続が困難になった学生はいないとのことでした。授業に支障が出ていない点は、福島医科大でも同様ですが、仮設に生活する家族を思いストレスを感じたり、1人暮らしの家に家族が避難してきている学生もいるとのことでした。原発への恐怖で大学を中退した学生もおり、入学辞退者が、例年の5人から12人に

増加したことから、長期的に原発問題が大学運営に落とす影が危惧されました。また、南海地震への備えについて、学生が緊急時に効果的に医療者を補助できるような車椅子の使い方等の知識を、特に医学部では看護学実習等で身に付けるようなカリキュラムを作成することの他、香川大学では「救急災害医療学講座」を持つ強みを活かし、ACLS勉強会等が中心になって、こういった緊急時に役立つ知識・技術の習得をしていくことも提案して頂きました。

報告会後は、瓦町にて懇親会を行いました。今回は、緊急時に効果的に協力できるような医療系学生のネットワークを作ろうという事で、5月の現地ボランティアで知り合った四国他県の学生を中心に声かけをして、報告会以前に、香川大学が中心となってチーム四国 Students のメーリングリストを作っていました。そこで、南海地震への備えを考えるということからも、本報告会への参加を募り、残念ながら日程の合わなかった高知以外、徳島・愛媛の学生の方にも聞きに来て頂くことができ、徳島の方には、懇親会にも参加して頂きました。



<報告者の方々と最前列左より平尾先生、阪本先生、黒田先生、遠方より駆け付けて下さった愛媛大学、徳島大学の学生の皆さん、そしてチーム香川 Students、全員集合です！>

当日は、約 70 名の方に聞きに来て頂く事ができ、会場での募金 1 万 752 円を NPO 法人 ジャパンプラットホームに送金させて頂きました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、チーム香川 students の結成という形で、緊急時への対応を軸とした、学部の枠を超えた香川大学生の連携が生まれました。また、報告会については、NHK、四国新聞、毎日新聞といったメディアの方に事前および事後で取り上げて頂く事ができたので、貴重な被災地の方の経験や四国の災害に備えた学生の動きについて一般の方にも、幅広く知って頂く事ができました。今回の震災への関りを通じ、効果的な災害医療には、平時から高齢者や障害者等の災害弱者を守る危機管理意識を持ち、他の様々な社会資源との連携が取れた地域医療が不可欠であると感じたので、こういったメディアによる社会への情報発信は有意義であったと考えます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

報告会当日のアンケート結果からは、災害への学生の備えとして5つのことが挙げられました。

1つ目は、「意識の向上」です。報告者の方々に共通の感想として、医療系の学生だから特別できることは無かったが、プロの医療従事者が十分に活動できるための補助も大変重要な役割であったこと、また日々の学びが重要なのも事実ということがありました。災害がいつでも起こり得ることを念頭に



＜香川大生からの質問の様子＞

何気ない日常に感謝し、緊急時には臨床で効果的に 専門家の補助ができるよう、実習には真面目に取り組みたい、実習への意欲が増したといった回答が見られました。

2つ目は、「知識・技術の取得」として、今はカリキュラムに含まれていない、上記に述べたような緊急時看護や介護の基礎知識の習得、自分の生活する地域を知り、避難場所を確認し、災害に関する情報収集を行なうことが挙げられました。

3つ目は、「防災シミュレーション」として、災害を想定したマニュアル作成と災害時訓練が挙げられました。

4つ目は、「ネットワーク作り」であり、学生間と地域での災害時ボランティアネットワークを作り、特に地域では家族構成や持病から災害弱者になり得る人を把握しておくことが挙げられました。

そして5つ目は、「情報発信」として、地域の方に災害時対応の講習会を行うことです。全体的に、医療機関と地域社会との連携の重要性への認識が高まった印象を受けました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

もう少し来場者を増やすことができたのではという広報の点と、もう少し学生間の議論の時間を設けても良かったという来場者の声を踏まえ、次の機会があれば、改善していきたいと思います。

今後は、現在、報告会のアンケート集計をチーム四国 Students の ML でも共有していますが、学内・外での情報共有を継続し、足元からできることをしていきたいと考えています。例えば、南海地震を想定し、香川大学危機管理センターのご協力を得て、万が一の際には、学生が効果的なボランティア活動ができるための知識・技術の講習会を、四国他県の学生の方と合同で開催し、同時に各県の防災活動の報告会や意見交換会を行なうことなどの案が出ています。

最後となってしまいました。今回、このような企画を実現させて下さった夢プロジェクトに心から感謝致します。ありがとうございました。

7. 実施メンバー

代表者	上柴	このみ	(医学部4年)		
構成員	池野	世新	(医学部6年)	礒山	智史 (医学部3年)
	香西	友佳	(医学部6年)	加藤	三咲子 (医学部3年)
	鈴井	泉	(医学部6年)	中村	杏子 (医学部3年)
	鈴木	健太	(医学部6年)	目瀬	亨 (医学部3年)
	成田	萌	(医学部6年)	渡部	大輔 (医学部3年)
	新居	広一郎	(医学部6年)	山村	將 (医学部2年)
	丸田	悠加	(医学部6年)	横田	崇之 (医学部2年)
	本波	理香	(医学部6年)	樋渡	健悟 (医学部1年)
	森田	幸子	(医学部6年)	森並	次朗 (医学部1年)
	岸本	優佳	(医学部5年)	中上	恭子 (経済学部3年)
	戸村	美紀	(医学部5年)	大平	加代 (善通寺看護学校3年)
	高見	康景	(医学部5年)	原田	紗千子 (善通寺看護学校3年)
	青江	真吾	(医学部4年)	藤原	義信 (善通寺看護学校3年)
	小林	貴行	(医学部4年)	松尾	優樹 (善通寺看護学校2年)
	多々川	貴一	(医学部4年)		
	村田	智洋	(医学部4年)		